

雑草 一（五百字）

道ばたや空き地、アスファルトのすき間。人が手入れをしない場所にも、雑草はいつのまにか生えてくる。抜いても抜いてもまた生えてくる雑草を見て、「雑草は強い」と感じる人は多い。では、強いとは、どういうことだろうか。

一般的に、強いとは、太く、硬く、大きいことだと考えられている。強い植物といえば、太い幹を持ち、大きく枝を広げる大木を思い浮かべる人が多いだろう。ほかの植物より高く育ち、日の光をひとりにめにする。そういう植物こそ強いのだと、多くの人は考える。

ところが、本当に生き残るのは、折れずに形を変えるもののほうだ。硬いものは、思いがけない大きな力に一度で折れてしまう。いつぼう、しなるものは、その力を受け流すことができる。雑草は太くも硬くもない。けれども、踏まれれば低くはい、刈られれば根もとからまたのびる。周りに合わせて形を変えることで、雑草は生きのびているのである。

つまり、雑草の強さとは、大きさや硬さの強さではなく、変化に合わせる強さである。大木のように高くならなくても、雑草は雑草のやり方で生き残っている。本当の強さとは、こわれないことではなく、変わりつづけられることなのかもしれない。

課題一 筆者の主張を一文で書こう。

課題二 一般論の段落は何段落目だろう。（ ） 段落目

雑草 二（八百字）

道ばたや空き地、アスファルトのすき間。人が手入れをしない場所にも、雑草はいつのまにか生えてくる。抜いても抜いてもまた生えてくる雑草を見て、「雑草は強い」と感じる人は多い。では、強いとは、どういうことだろうか。

一般的に、強いとは、太く、硬く、大きいことだと考えられている。強い植物といえば、太い幹を持ち、大きく枝を広げる大木を思い浮かべる人が多いだろう。ほかの植物より高く育ち、日の光をひとりにめにする。そういう植物こそ強いのだと、多くの人は考える。

ところが、本当に生き残るのは、折れずに形を変えるもののほうだ。硬いものは、思いがけない大きな力に一度で折れてしまう。いつぼう、しなるものは、その力を受け流すことができる。雑草は太くも硬くもない。光をめぐる競争になれば、大木にはかなわない。けれども、踏まれれば低くはい、刈られれば根もとからまたのびる。周りに合わせて形を変えることで、雑草は生きのびているのである。

たとえば、同じ種類の雑草でも、生える場所によって姿が変わる。日当たりのよい広い場所では、背を高くのぼして葉を広げる。ところが、人によく踏まれる道ばたでは、くきを地面にはわせて、低く広がる。踏まれても折れないのは、はじめから低く、やわらかいからだ。もし道ばたで背を高く硬くのぼしていたら、一度踏まれただけで折れてしまうだろう。決まった形にこだわらず、その場に合った形になる。だから雑草は、人が手入れをしない場所でも、人がたくさん歩く場所でも、生きていけるのである。

雑草の強さとは、大きさや硬さの強さではなく、変化に合わせる強さなのである。大木のように高くならなくても、雑草は雑草のやり方で生き残っている。そろって太く硬い木より、形を変えられる草のほうが、思いがけない力にはよく耐える。こわれないことではなく、変わりつつづけられること。それこそが、本当の強さなのである。

課題一 筆者の主張を一文で書こう。

課題二 一般論の段落は何段落目だろう。（ ） 段落目

雑草 三(千二百字)

道ばたや空き地、アスファルトのすき間。人の手が入らない場所にも、雑草はいつのまにか芽を出し、抜いても抜いてもまた生えてくる。その姿を見て「雑草は強い」と感じる人は多いだろう。では、ここでいう強さとは、いったい何を指しているのだろうか。

一般的に、強いとは、太く、硬く、大きいことだと考えられている。強い植物といえば、太い幹を持ち、枝葉を大きく広げる大木を想像する人が多いだろう。ほかの植物より高く育ち、日光を独占する。競争に勝ち、ほかを押しのけて立つものこそが強いのだと、多くの人は考えている。

ところが、本当に生き残るのは、折れずに形を変えるもののほうである。硬いものは、思いがけない大きな力が加わると、一度で折れてしまう。これに対して、しなるものは、その力を受け流すことができる。雑草は太くも硬くもなく、光をめぐる競争では大木にかなわない。にもかかわらず生き残っているのは、踏まれれば低くはい、刈られれば根もとからまたのびるからだ。周囲の環境に合わせて、自分の形や生き方を変えているのである。

日当たりのよい開けた場所と、人によく踏まれる道ばた。同じ種類の雑草でも、生える場所によつて姿は大きく異なる。開けた場所では、背を高くのばして葉を広げる。ところが、道ばたでは、くきを地面にはわせ、低く広がって育つ。踏まれても折れないのは、はじめから低く、やわらかい形をとっているからだ。仮に道ばたで背を高く、硬くのばしていたなら、一度踏まれただけで折れてしまうだろう。決まった形に固執せず、その場に適した形になる。この柔軟さがあるからこそ、雑草は大木の育たない場所でも生きていけるのである。

道ばたや土手では、ときどき草刈りが行われる。そこに多いイネ科の草は、のびる部分(成長点)が根もとの近くにある。そのため、上のほうを刈り取られても、のびる部分は無事に残り、すぐにまた葉をのばす。刈られるたびに、こりずに同じ場所から芽を出す。これは、刈られることにさからうのではなく、刈られることを前提にして、体のつくりを変えた結果である。刈られて困るのは、むしろ、先端に成長点をもつ背の高い植物のほうだ。一度切られれば、のび直すまでに長い時間がかかる。刈られても平気な雑草と、刈られると弱る背の高い植物。どちらが変化に強いかは明らかだろう。

このように、雑草の強さとは、大きさや硬さによる強さではなく、変化に合わせる強さである。太く硬い大木が、ふつうの風や雨にはびくともしないことを否定はしない。その意味では、大木もまた強い。けれども、思いがけない力に対して生き残るのは、折れずに形を変えるもののほうである。これがないことより、変わりつづけられること。雑草の生き方は、強さの意味をそう教えている。

雑草 三（千二百字） 課題

課題一 筆者の主張を一文で書こう。

課題二 一般論の段落は何段落目だろう。（ ） 段落目